

## 1. 略歴

1988年4月	東京大学教養学部文科3類入学
1992年3月	東京大学文学部第3類（語学文学）仏語仏文学専修課程卒業
1992年4月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程（仏語仏文学専攻）入学
1993年10月	ストラスブール第2大学修士課程（近代文学）入学
1994年10月	パリ第7大学高等研究課程入学（～1995年9月 修了）
1996年3月	東京大学大学院人文社会系研究科修士課程（欧米系文化研究専攻）修了
1996年4月	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程（欧米系文化研究専攻）進学
1996年10月	パリ第7大学博士課程（テキストと資料の科学）入学（～2004年12月）
1996年10月	高等師範学校外国人聴講生（～1997年7月）
1997年4月	日本学術振興会特別研究員（DC2）（～1999年3月）
2000年3月	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学
2000年4月	日本学術振興会特別研究員（PD）（～2003年3月）
2005年1月	京都大学人文科学研究所 助教授
2007年4月	京都大学人文科学研究所 准教授
2008年8月	ライデン大学図書館スカリゲル・フェロー
2009年10月	パリ第1大学（哲学科）外国人研究員（～2010年9月）
2012年7月	パリ西大学博士号（仏語仏文学）取得
2019年9月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

フランス近現代思想

### b 研究課題

- (1) フランスを中心とする18世紀西洋思想——フランス啓蒙期の歴史叙述・政治思想・経済思想の交錯に焦点を当てる。
- (2) フランス20世紀思想——1960年代以降の構造主義・ポスト構造主義の諸潮流と、西欧近世思想史ならびに同時代の左翼政治との関係に焦点を当てる。
- (3) 日本の近現代思想・批評——とくに西洋の同時代の思想との関連に焦点を当てる。

### c 概要と自己評価

- (1) 『両インド史』批評校訂版共同ディレクターとして、この批評校訂版第四巻（近刊予定）のうち、アメリカ合衆国独立に捧げられた第18篇の批評校訂及びプレゼンテーションの執筆を行なった。他に、啓蒙期の政治思想史についての概観的叙述やモンテスキュー『ペルシャ人の手紙』論にも取り組んだ。
- (2) ミシェル・フーコーの初期作品から『狂気の歴史』と『カント『人間学』への序文』までのフーコーの人間主義批判を検討する論文を執筆した。またウェーバー没後100周年に際して、ウェーバーの新カント主義との関係について論文を執筆した。
- (3) （68年）前後の精神医学批判以後、近年までの精神医学・精神医療体制の変遷について書かれた石原孝二『精神障害を哲学する』（2018）と小泉義之『あたらしい狂気の歴史』（2018）を素材として、現在の哲学と狂気をめぐる議論に対して批判的な議論を展開した。

### d 主要業績

#### (1) 著編著

共編著、伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編、『世界哲学史 6—近代I 啓蒙と人間感情論』、ちくま書房新書、2020.6

共著、小泉義之・立木康介編、『フーコー研究』岩波書店、2021.3

共著、相澤伸依・市田良彦他30名、『狂い咲く、フーコー 京都大学人文科学研究所 人文研アカデミー『フーコー研究』出版記念シンポジウム全記録+（プラス）』、週刊読書人、2021.8

## (2) 主要論文

王寺賢太、「啓蒙から革命へ」、伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編『世界哲学史 6』ちくま書房新書、99-119 頁、2020.6

王寺賢太、「〈ポスト 68 年〉の狂気と哲学」、哲学会編『哲学雑誌』第 134 巻第 807 号、33-47 頁、2020.10

王寺賢太、「批判と啓蒙—ウェーバーとフーコーにおける学問・政治・主体」、『現代思想』第 48 巻 17 号、133-143 頁、2020.12

王寺賢太、「二重化するフーコー —1961 年の人間学批判とヘーゲル・ハイデガー・カント」、小泉義之・立木康介編『フーコー研究』京都大学人文科学研究所共同研究成果報告書、岩波書店、286-335 頁、2021.3

王寺賢太、「18 世紀フランス政治思想史をどう読むか—政治的自律の諸相」、『文化交流研究』第 34 号、65-77 頁、2021.3

## (3) 学会発表など

国内、王寺賢太、「18 世紀政治思想史をどう読むか」、東京大学文学部文学部茶話会、2020.11.5

国内、王寺賢太（ディスカッサント）、「狂い咲く、フーコー 小泉義之・立木康介共編『フーコー研究』出版記念シンポジウム」、コメンテーター：重田園江・森元庸介、京都大学人文科学研究所主催（オンライン開催）、2021.3.27

国内、王寺賢太、「フランス啓蒙から見た世界・〈われわれ〉・歴史」、連続シンポジウム「世界哲学・世界哲学史を再考する」第三回、東京大学東アジア藝文書院（オンライン開催）、2021.4.30

国内、王寺賢太（コメンテーター）、村山祐紀「機械・調和・瞬間—17 世紀後半から 18 世紀フランスにおける絵画言説史—」へのコメント、日本フランス語フランス文学会ビデオセッション、上智大学主催（オンライン開催）、2021.5.23

国内、王寺賢太、「歴史とユートピア 『両インド史』のパラグアイ布教区叙述をめぐって」、塚本昌則・鈴木雅雄主催「文学としての人文知」科研研究会第 6 回（オンライン開催）、2021.7.20

国内、王寺賢太（ディスカッサント）、齋藤晃編『宣教と適応』合評会、コメンテーター：横山和加子・吉田一彦・小俣ラポー日登美・安平弦司、国立民族学博物館主催（オンライン開催）、2022.3.20

## 3. 主な社会活動

### (1) 学会

日本 18 世紀学会幹事、2007 年～現在

日本フランス語フランス文学会常任幹事、2020 年～2021 年、同編集担当幹事、2021 年～現在

### (2) 学術委員

Diderot Studies (Université Laval, Canada) 日本通信員、2007 年～現在

Guillaume-Thomas Raynal, *Histoire philosophique et politique des établissements et du commerce des Européens dans les deux Indes* 批評校訂版 (Fernay-Voltaire, Suisse, Centre international d'étude du 18e siècle) 編集委員、2013 年～現在、共同ディレクター、2016 年～現在

Cromohs (*Cyber Review of Modern Historiography*, Firenze University Press) Editorial Board メンバー、2014 年～現在

ENCCRE (Édition Numérique Collaborative et CRitique de l'Encyclopédie de Diderot), Académie des Sciences (France) 編集チームメンバー、2016 年～現在